

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791100092		
法人名	有限会社 タムラ		
事業所名	グループホームはこべ西棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99		
自己評価作成日	令和5年1月14日	評価結果市町村受理日	令和5年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所より8か月、地域の皆様や地域の医療機関との信頼関係の構築が図られ、看取り対応型グループホームとして、ご利用者様とご家族様の生活をサポートできていると自負しております。未だ終息の見えない新型コロナウイルス感染症対策のため、ご利用者様、ご家族様、また職員も忍耐を強いられる生活が続いております。ご利用者様の安全、安心な生活を守るため、感染対策の徹底と笑顔あふれる「心ある介護」の提供を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所の菜園で地域の方々や利用者・職員とて作物を育てたり、天候の良い日は玄関前にテーブルを出し、近所の方々を交えて、お茶を楽しんだり、コロナ禍にあっても地域との交流を深めている。地区の清掃活動への職員参加や近隣の高齢者宅の雪かきに職員が出向いたり、地域に密着した活動を行っている。
 2. 処遇困難事例や看取り期にある利用者の受け入れも多く、地域・医療・福祉・行政機関等からの信頼も厚い。看取り期には医療・看護・介護、多職種協働のもと、家族と複数回に亘る話し合いの機会を設け、最期(逝去)まで意見・要望を重視し、利用者・家族に寄り添った看取りケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を貼り常に目につくようにして、職員全員が共有できるようにしている。 また、理念に添ったケアができるように心がけている。	同法人の系列グループホームと共通の理念を掲げている。事務所・職員休憩室・ホールに掲示するとともに日頃の業務の確認や利用者を支援する際の拠り所としている。年度末に理念に基づく実践や課題を振り返り、新年度事業計画を策定し、今後は事業所独自の理念を作成する予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、地域との交流を控えており、交流はあまりないが、利用者と一緒に地域の花見スポットへ花を見に出かけたりして、できる範囲で地域とのつながりが途切れない様に努めている。	地区の清掃活動への職員参加(年2回)や近隣の高齢者宅の雪かきに職員が出向いたり、事業所の菜園で地域の方々・利用者・職員と作物を育てたりと、コロナ禍にあっても地域との交流を深めている。玄関前にテーブルを出し、近所の方を交えて、お茶を楽しむこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域の方から相談があった場合に相談に乗ったり、必要な方には相談窓口として地域包括支援センターを紹介する事くらいしかできていないが、今後事業所の力を活かした地域貢献の取り組みについて考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	現在は新型コロナウイルス感染症の感染予防の為運営推進会議は開催できていないが会議メンバーの方には文書にて事業所の取組内容についてお知らせしており、それについての意見があればお寄せ頂きたいとお願いしている。	コロナ禍により書面開催としている。行事報告・予定や入居者概要等をまとめた資料を郵送または手交している。委員からは口頭で意見を伺うように心がけている。同法人系列の他2ヶ所のグループホームと合同開催している。	運営推進会議は事業所からの報告に留まらず、各委員から文書等で意見を収集して事業運営に活用する等、双方向的かつ有機的な会議運営を期待したい。また事業所単独での開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と連絡を取り合っており、事業所の実情を伝えている。また、わからない事を教えて頂くなど協力関係を築いている。	コロナ禍により担当課とは、電話・FAX・メール等でのやり取りが増えているが、管理者は介護認定等の業務で窓口に出向いている。また処遇困難事例の受け入れも多く、担当課や地域包括支援センターとの密な連携並びに協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に話し合いを行い、できる限り身体拘束をしない方向でケアに取り組んでいるが、転倒事故につながる危険の大きい方については、家族の承諾を得て最小限の範囲でセンサーマットの使用やベットの柵を使用させて頂いている方もいる。	身体拘束廃止委員会を年4回、研修会を年2回開催するとともに、毎朝のミーティングや全体会議の中でも拘束を要しないケアについて検討・確認をしている。不適切な対応や声かけなどが見受けられた際は職員が互いに注意する体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所としてはまだ研修等は行っていないが、ニュースなどの虐待事例については申し送りで話し合い、事業所内で身体的、精神的虐待にあたる行為が無いが職員間で話し合いを行い虐待防止に努めている。また、職員のストレス等虐待の要因となる事柄には特に注意し目を向けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所としてはまだ研修等は行っていないが、今後研修等の機会を持ち、対象者が入居された際は活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に書類を渡して目を通して頂き、契約時に利用者や家族に不安や疑問に思うところは無いか確認しながら説明を行っている。また、後日になって疑問に思った事等があればいつでも電話にて説明させて頂く事を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日頃から意見や要望を伺っている。家族には面会に来られた際や電話にて伺い運営に反映させている。料金改定などがあった時はその都度説明を行い承諾書を得ている。	家族来訪時や生活状況などを電話報告する際に意見を伺っている。行事食やレクリエーションのメニューなども利用者の声を活かし、運営に反映している。看取り期には家族と複数回に亘る話し合いを重ね、最期まで意見・要望を重視し、利用者・家族に寄り添ったケアを実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所長は毎朝の申し送りに参加しており、所長や管理者と職員は普段から話し易い環境となっている。また、職員の意見や提案を運営に反映させるよう努めている。	所長は毎日職員一人一人に細やかな声かけを行うとともに意見を吸い上げ、運営に活かしている。職員の提案で玄関前に利用者とともに花壇づくりを行い、来訪者にも喜ばれている。管理者も職員からの疑問や相談に乗るとともに、勤務シフトの調整等にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長は管理者や職員個々の実績や勤務状況を把握しており、状況に応じて労働条件の変更や勤務調整が図られており、働きやすい職場環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会は少なかったが、今後は研修を受ける機会を確保していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、同業者と交流する機会はなかったが、今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、同業者との交流の機会を作っていく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の価値観や考え方を受け取って認め、特に入居から一週間くらいは本人が困っていたり、不安なことはないか、本人の様子を注意深く見守り、言葉かけを多くして安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階で、不安や要望があればいつでも電話下さいと家族には伝えている。また、入居当日から数日のホームでの本人の様子を家族に伝え安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の実情や要望を踏まえて、職員間で話合い本人、家族が「その時必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の敷地内を一緒に散歩しながら色々な話をしたり、利用者の残存能力を活かして一緒に軽作業を行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に入居前の自宅での生活の様子を伺い、折に触れホームでの生活の様子を伝え、本人と家族の絆を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、面会や外出の制限はあるが、できるだけ馴染みの関係が途切れないように努めており、馴染みの床屋に散髪に出かける方もいる。	面会は窓越しながら玄関前で対面で実施している。家族等からの電話は子機を手渡し、ゆっくりと話して頂いている。近所の理美容店からの訪問理髪に加えて、馴染みの理髪店に外出したり、家族と墓参りに出かけたりと今までの関係継続を大切にした支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しホールでの席の配置に配慮し、会話の内容によっては必要時職員が間に入り話題の転換を行ったりしている。利用者同士で会話を楽しんだり、一緒に軽作業をしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、手紙や電話でフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から本人の思いや希望、意向の把握に努めている。思いの表出が困難な方場合は本人の立場に立って、本人の日頃の様子から推察している。	日々のケア場面で利用者とのコミュニケーションを深め、希望や意向の把握に努めている。意向確認が難しい場合は、日頃の生活風景から思いや願いを推察したり、質問形式での声かけなど会話に工夫を加える等、利用者本位のケアが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの聞き取りにより、生活歴やこれまでの暮らし方、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身の状態、現状の有する力等について、毎日の記録や申し送りにて把握に努め、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリングにて、課題とケアのあり方について話し合い、それぞれの意見等を反映し介護計画を作成している。家族には電話にて状態報告をし、意見や意向を確認している。	新規入居時は、利用者・家族・関係者から情報を収集し、短期目標を1ヶ月に設定、その後は職員協働でモニタリングシートに「プランごとの総合評価」と「今後の対応(継続・見直し・中止・他)」を集約し、ケース検討会議にてプランを策定している。短期目標期間の3ヶ月ごとに利用者・家族にプランの説明・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を介護記録等に記入し、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況やニーズに合わせて柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、制限はあるが、地域の理容院の方に髪切に来て頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に受診についての説明を行い、本人や家族の希望の確認を行っている。本人の状態に合わせ、外来受診や往診、訪問診療にて適切な医療を受けられるように支援している。	契約時に、家族や本人の意向を確認し適切な医療が受けられるよう支援している。月2回の訪問診療と月1回の外来受診を支援している。また、歯科医の訪問診療もある。町内の通院は事業所の看護師が付き添い、家族・職員共に受診結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの身体状況や体調の把握に努め、体調に変化がみられた時は早期に看護師に報告、相談し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所の看護師は日頃から、病院関係者との情報交換や相談に努めており、病院関係者との関係づくりができており、利用者の入退院の際はスムーズな対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた事業所の方針について、契約時に説明を行っている。また、利用者の状態が重度化した場合や終末期と考えられる場合は、カンファレンスを行い、家族の意向を確認しながらチームで支援に取り組んでいる。	契約時に事業所の重度化・看取り指針を説明し、書面で家族等の意向確認を行い同意を得ている。重度化や看取りケアについて、状態変化の都度、医師の説明と家族の意向確認を書面で行い、方針を共有しながら支援している。研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員個々の経験により、応急手当や初期対応の知識や対応能力に差がある為、今後は定期的に訓練を行い実践力を身に付ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で合同消防訓練を行ったり、各棟ごとの訓練や緊急通報訓練等は行っており、新型コロナ以前は地域の方にも消防訓練に参加して頂いており、法人としては火災や災害時の地域との協力体制を築いているが、事業所としては今後地域との協力体制の構築と利用者の避難方法を全職員が身につけるように努めていく。	年2回消防署の指導の下、火災等想定した避難訓練を実施し、災害時・緊急時の通報リレー訓練も行っている。今年度内に地震想定避難訓練を予定している。法人としては、非常災害時の地域の方の協力体制がある。備蓄品は飲料水・食料品・応急医療セット・ラジオ等の他、救出用資機材(スコップ、ハンマー、つるはし、ロープ等)も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の現在の姿だけではなく、これまで歩んできた生活歴を知り一人ひとりが人格を尊重されるべき存在であると認識し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	利用者一人一人の意思を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いやケアを周知徹底している。特にスピーチロックについては、所長より会議等で周知徹底されており、職員同士で注意し合える職場環境が醸成されている。書類等は鍵付書庫で管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は一方的に介護をするのではなく、本人に「何がしたいか」「どうしたいか」確認しながら支援している。また、本人が思いや希望を表出できるように話易い雰囲気作りと言葉かけの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、それを押し付けることは無く、一人ひとりが自分のペースでテレビを観たり、他利用者と会話を楽しんだり好きなように過ごしておられる。また、利用者に何がしたいか確認しカラオケや塗り絵、ゲームなどを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をとかしたり、自分で出来る方には自分でして頂き、髭剃りや爪切りなどの介助を行っている。また、更衣の際は本人に着る服を選んで頂いたり、本人の好みを考慮して選んでさしあげたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節の野菜を沢山頂いたときなどは、畑仕事の話や調理の仕方などの話をしながら、野菜を切ったり、皮むきなどを一緒に行っている。また、食事は利用者職員が一緒にテーブルで会話しながら一緒に食べている。	事業所の栄養士が利用者の好みや食べたい物を聞きながら献立を作成している。食材は地域の商店からの注文配達や畑の収穫野菜、地域住民の方の差し入れで賄い、利用者は皮むきや刻み等に参加し、職員と食事を共にしている。誕生日の希望食や季節に応じた食事、ホットプレートで焼そばや焼肉を作るなど、楽しい食事となるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は栄養バランスを考慮して栄養士が作成している。食事の摂取量や水分の摂取量も記録に残し全職員が把握している。また、一人ひとりの状態に合わせて食事形態を常食、刻み食、ミキサー食として提供し、一人ひとりに必要な栄養や水分が確保できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし歯磨きをして頂いている。自身で出来ない方には介助にて口腔ケアを行っている。就寝時には義歯を外して頂き、朝まで洗浄液に置き置きしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便意、尿意の無い方にも定期的に排泄の声かけ、トイレ誘導を行い、できる限りトイレでの排泄を支援している。また、一人ひとりの排泄のパターンを記録に残し全職員が把握している。	排泄チェック表を基に、一人一人に合わせた声かけ誘導を行い、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。また、利用者の表情や行動等から排泄パターンを把握し、羞恥心や自尊心を損ねない声かけに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、運動への参加促し、飲食物の工夫、服薬の調整等を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上は入浴して頂けるように努めている。希望を伺い、心地よい形で入浴を促している。重度になっても看護師の指導で安全に入浴して頂けるように支援をしている。	入浴は週2回以上を基本に午前中に実施している。希望や体調により午後入浴も臨機応変に対応している。個浴・機械浴で、利用者の身体状況や体調に応じた支援が出来ている。入浴を好まない方には、時間を見計らった声かけや対応職員を代えるなど、工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中に休息の時間を設けているが、それにとらわれずに一人ひとりが自分のペースで休息をされている。また、自分で動けない方には疲れていないか常に様子観察を行い、疲れた様子がみられた時は、声掛けし休んで頂く等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬について、説明書をファイルに閉じいつでも確認できるようにしている。服薬の内容が変わった時は申し送りにて情報を共有し、状態の変化等の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や好みに合わせて、軽作業をお願いしたり、レクリエーション参加を促したり、散歩等にお誘いしたりして役割や楽しみごと、気分転換の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため外出に制限があるが、感染拡大の状況を見ながら、近所に花見に出かける等できる範囲で外出支援を行っている。また、本人の希望で家族と買い物等に出かけている方もいる。	日常的な外出は、広い事業所敷地内や近所周辺を散歩し気分転換を図っている。また、紫陽花やざる菊見学等、四季に応じた外出支援をしている。家族と墓参りや命日に出かけたり、買い物に出かけている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理やお金を使うことができる方には、お金を事務所の金庫で預かり、本人から希望があった時に本人に渡す形でお金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかってきたり、家に電話したいと希望があった時には電話の子機にて話をして頂いている。また、携帯電話にて自由に電話のやり取りをされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには花や観葉植物等を置き、季節毎の飾りを飾り、季節感が味わえるようにしている。また、テレビの音量や射光、室温の調節等を行い不快無く過ごせるように配慮している。	田園風景や町並みが見渡せ、天井が円錐形をしたホールには円形テーブルが配置されている。周りにはソファが置かれ、テレビや利用者の好きなカラオケセットも置かれ、好きな場所で楽しめるよう配慮されている。また、観葉植物を置き、壁面には行事の写真や共同作品を掲示してあり、落ち着いた雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには丸テーブルが3つとソファがあり、利用者が気の合う利用者同士でテーブル席を自由に移動し集まって会話を楽しんだり、ソファでテレビを観て寛いだりと思思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	お一人おひとりの希望に合った居室で安心して過ごして頂けるように努めている。居室に絵を飾ったり、自分で作った手芸品などを飾っていたり、娘さんよりの手紙を貼ったりしている方、テレビを置いて一人でゆっくりテレビを観られている方など、それぞれに合った居心地の良い場所になるよう、本人、家族と話しをしている。	居室にはベッド・整理ダンス・床頭台が置かれている。利用者は、それぞれテレビ・ラジオ・歩行用運動マシン等を持ち込み家族写真や自作のつるし雛を飾り、居心地よく過ごせるよう、家族と相談しながら配置を決めている。居室の出入り口には、避難誘導の際に、車椅子や介助状況がわかるよう掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室が分からない方もいるのでトイレや居室に目印をつけている。トイレや浴室には手すりをつけ安全に入浴や排泄ができるようになっている。また、現在はいないが、利用者の状態に合わせベットではなく布団で寝て頂くなど工夫をしている。		